

令和4年度

教員資格及び教育内容等の自己評価書報告

令和5年7月31日

< 作業療法学科 >

様式 3

作業療法学科 教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数							非常勤 教員	専任教 員一人 あたりの在籍 学生数	備考	
	副校 長	学科 長	副学 科長	専任 教員	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数				助手
作業療法 学科	0人	1人	1人	4人	6人	6人	6人	0人	35人	13.1人	2022 年在 籍者 数 79 名

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input type="radio"/>	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活 社会の理解	社会心理学	30	田中豊治	兼任
		社会福祉学	30	鬼崎信好	兼任
		地域福祉論	30	鬼崎信好	兼任
		老人福祉論	30	鬼崎信好	兼任
		生涯教育論	30	溝内亮佑	兼任
		心理学	60	津田彰/吉良晴子	兼任
		教育学	60	佐藤洋希	兼任
		統計学	30	中村博和	兼任
		くらしとマルチ メディア	30	中島道夫	兼任
		体育 1	45	坂元瑞貴/大川裕行/藤井洋恵	兼任
		体育 2	45	坂元瑞貴/藤井洋恵	兼任
		英語 1	30	木原 誠	兼任
		英語 2	30	内山美枝子/山炭春香/坂本飛鳥	専任/兼任
		専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学 1	45
解剖学 2	45			太田啓介/嵯峨堅	兼任
解剖学実習 1	45			田平陽子	兼任
解剖学実習 2	45			田平陽子	兼任
生理学 1	30			山炭春香・木下佳祐	専任

		生理学 2	30	鶴崎政志	兼任	
		生理学 3	30	鶴崎政志	兼任	
		生理学実習	45	政所和也/他	専任	
		運動力学総論	30	北島保子	専任	
		運動学	45	北島保子	専任	
		運動学実習	45	政所和也	専任	
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学概論	30	濱田信之	兼任	
		臨床心理学	30	津田彰/吉良晴子	兼任	
		内科学 1	30	藤田有加	専任	
		内科学 2	30	熊川恵子/井崎義己/川崎隆	兼任	
		整形外科学 1	30	國分裕一	専任	
		整形外科学 2	30	國分裕一	専任	
		神経内科学 1	30	木下佳祐	専任	
		神経内科学 2	30	木下佳祐	専任	
		精神医学 1	45	増本政也・中野慎也	兼任	
		精神医学 2	45	石田真由/田尻威雅/原田健一	専任/兼任	
		人間発達学	30	新田博司	兼任	
		画像読影	15	星原正則	兼任	
		保健福祉とリハビリテ ーションの理念	リハビリテーシ ョン概論	30	高森真須美	専任
			リハビリテーシ ョン医学	30	浅見豊子	兼任
専門分野	基礎作業療法学	理学療法士・作 業療法士論	30	石田 真由 他	専任	
		作業療法概論	30	高木 雄作	専任	
		作業療法 概論実習 1	45	石田 真由 他	専任	
		作業療法概論実 習 2	45	高木 雄作 他	専任	
		基礎作業学	30	石田 真由	専任	
		作業分析学	30	熊谷 隆史	専任	
	作業療法管理学	作業療法 管理運営学	30	高木 雄作	専任	
	作業療法評価学	作業療法評価学	30	内山 美枝子	専任	

		作業療法評価学 実習 1	60	内山 美枝子	専任
		作業療法評価学 実習 2	60	内山 美枝子	専任
		作業療法評価学 演習	30	内山 美枝子	専任
	作業療法治療学	基礎作業学実習 1	45	石田 真由	専任
		基礎作業学実習 2	45	石田 真由 他	専任
		集団活動作業治 療学実習	45	石田 真由	専任
		身体障害作業治 療学	45	寺崎 司	専任
		精神障害作業治 療学	60	堀 恭介	兼任
		発達障害作業治 療学	30	仙波 梨沙	兼任
		老年期作業治療 学	30	島ノ江 寿	専任
		高次脳機能障害 作業治療学	45	寺崎 司	専任
		認知障害作業治 療学	30	高木 雄作	専任
		身体障害作業治 療学実習	90	熊谷 隆史	専任
		精神障害作業治 療学実習	45	堀 恭介	兼任
		発達障害作業治 療学実習	45	仙波 梨沙	兼任
		義肢装具学	45	國分 裕一 島ノ江 寿	専任 専任
		日常生活活動学	45	島ノ江 寿	専任
		日常生活活動学 実習	45	島ノ江 寿	専任
	地域作業療法学	地域リハビリテ ーション	30	倉富 眞 他	兼任
		地域作業療法学 実習	45	島ノ江 寿 他	専任
		生活環境学	30	原口 考	兼任
	臨床実習	臨床実習 I	40	実習施設指導者	

		地域リハビリテーション実習	40	実習施設指導者	
		臨床実習Ⅱ	240	実習施設指導者	
		臨床実習Ⅲ	720	実習施設指導者	

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療施設の見学	1年後期	理学療法士・作業療法士論	1年前期
		作業療法概論	1年前期
		作業療法概論実習1	1年後期
通所リハビリテーションの見学	2年後期	リハビリテーション概論	2年前期
		基礎作業学	2年前期
医療施設等での評価	4年前期	作業療法評価学	1年後期
		作業療法評価学実習1	2年前後期
		作業療法評価学実習2	3年前後期
		作業療法評価学演習	3年後期
医療施設での実践	4年前後期	各障害領域作業療法治療学	3年前期
		集団活動作業治療学実習	3年前期
		日常生活活動学	3年前期
		各障害領域作業療法治療学実習	3年後期
		日常生活活動学実習	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	FD 委員会
委員名（委員長）	島ノ江 寿・内山 美枝子（高森真須美）
組織の開催頻度	1年に4回
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 授業参観の企画
	・ 教育力、指導力向上のための研修会の開催企画
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL： https://www.ryokuseikan.ac.jp ）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	役職者会議
	委員構成等	理学療法学科：高森真須美・竹井和人・政所和也 作業療法学科：島ノ江寿・熊谷隆史
	改善の仕組みの実際	厚生労働省指定規則改正や作業療法領域の拡大、教授手法の変遷等に 伴いシラバス全体の改正を行っている。役職者会議にて教育目標達成の ための方向性や枠組みを定め、具体的内容については理学療法学科・作 業療法学科合同教員会議にて決定している。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

自己点検・評価及び第三者評価、FD委員会等により明らかになった課題は、内容に応じて役職者会議、理学療法学科・作業療法学科合同教員会議、作業療法学科会議にて対応を検討している。また、カリキュラムの実施動向を取り組みながら振り返り、拡充・変遷する作業療法領域の情勢と照らし合わせながら、教育内容の見直しを図っていく。